

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.116

2009/07/20

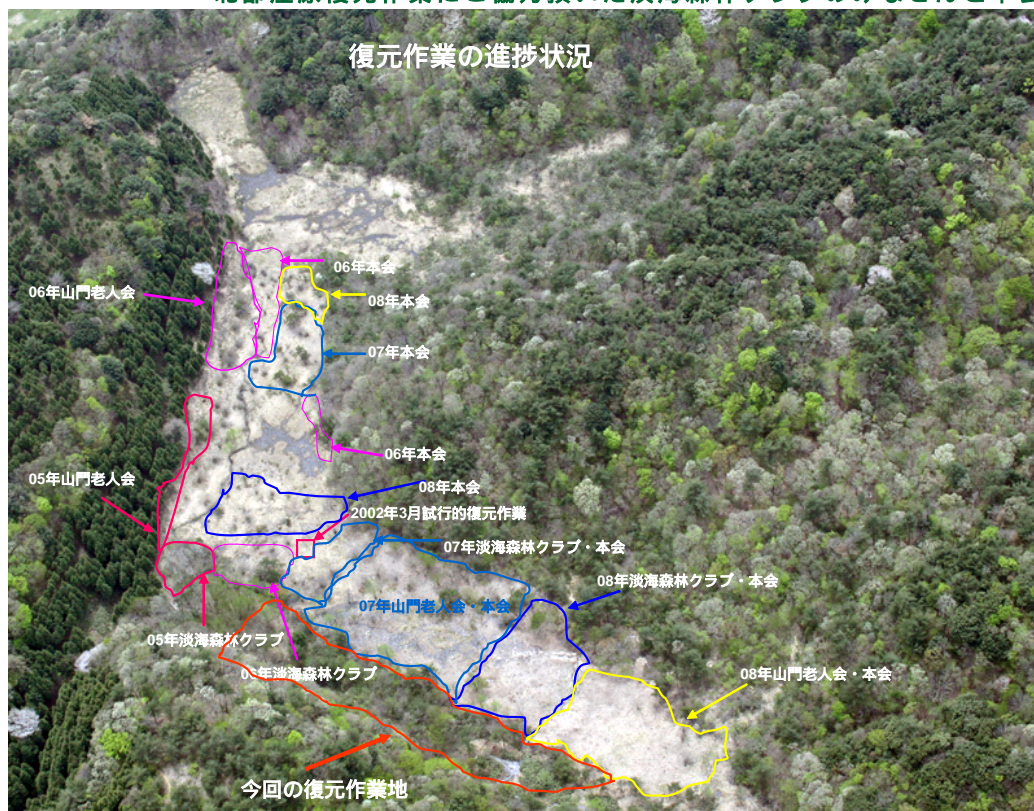
山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

今年もご協力頂きました



北部湿原復元作業にご協力頂いた淡海森林クラブのみなさんと本会会員 (09/07/11)

復元作業の進捗状況



湿原の復元作業の進捗状況

7月11日天気も奇跡的に好天に恵まれ最終段階に入った北部湿原の復元作業を行った。2005年からの本格的復元作業開始当初から毎年ご協力をしてもらっている「淡海森林クラブ」のみなさんが今年もご協力して下さいました。今年は、北部湿原を縦断している沢の東側の森林部の刈り払いと刈り払いした物の運搬作業を行いました。林間を歩きながら湿原の観察が出来ることを目的としています。左の画像からもわかるように、広い北部湿原が復元されました。復元した湿原には、次々と新しい生物が見られるようになってきました。



事前北部湿原刈り払い作業 (09/07/04)



作業中の淡海森林クラブの方々 (09/07/11)

淡海森林クラブのみなさんに作業をしてもらうための事前の作業は、6月中旬から連日会員によって行い、7月11日の作業によって見違えるような林間整備ができました。今後引き続き作業を行い7月中には作業を完了したいものと考えています。

森林レンジャーフル活動

6月から勤務が始まった琵琶湖森林レンジャーは、連日保全活動に携わって貰



木橋の掛け替え作業 (09/07/12)



階段の補修作業 (09/07/13)

っています。現在は、観察コースの保全作業が中心となっていますが、何せ広い森のこと全コースの補修完了までには相当の日時が必要です。会員諸氏のご協力も宜しく願っています。

付属湿地の意義益々増大

「やまかど・森の楽舎」付属湿地は、



イシガメの卵 (09/07/13)

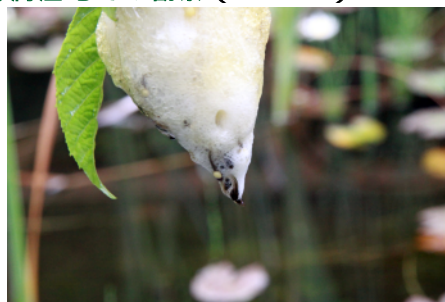


卵を喰うシマヘビ (09/07/13)

湿原への立入を禁止している代償として設置したが、年々その生物相も厚くなり所期の目的を十二分に発揮している。来訪者の生態系の理解には欠かせない有用な場所となってきた。過年度に湿地脇で産卵しているのが確認されているイシガメだが、本年は産卵がしやすいように砂場を設置した。7月に入ってようやく産卵が確認されたが、すかさずシマヘビが卵を喰う現場が確認された。モリアオガエルの産卵数も増加し、産卵行動、産卵後の卵塊の時間的变化、孵化等を間近で観察も出来る。もちろん各種トンボの羽化等も詳細に観察出来る。このような観察は、横に「やまかど・森の楽舎」があることで如何様な天気条件でも可能というのがありがたい。ゆったりと「やまかど・森の楽舎」で1日を過ごされては・・・



付属湿地での観察 (09/07/03)



アオガエルの孵化 (09/07/08)

